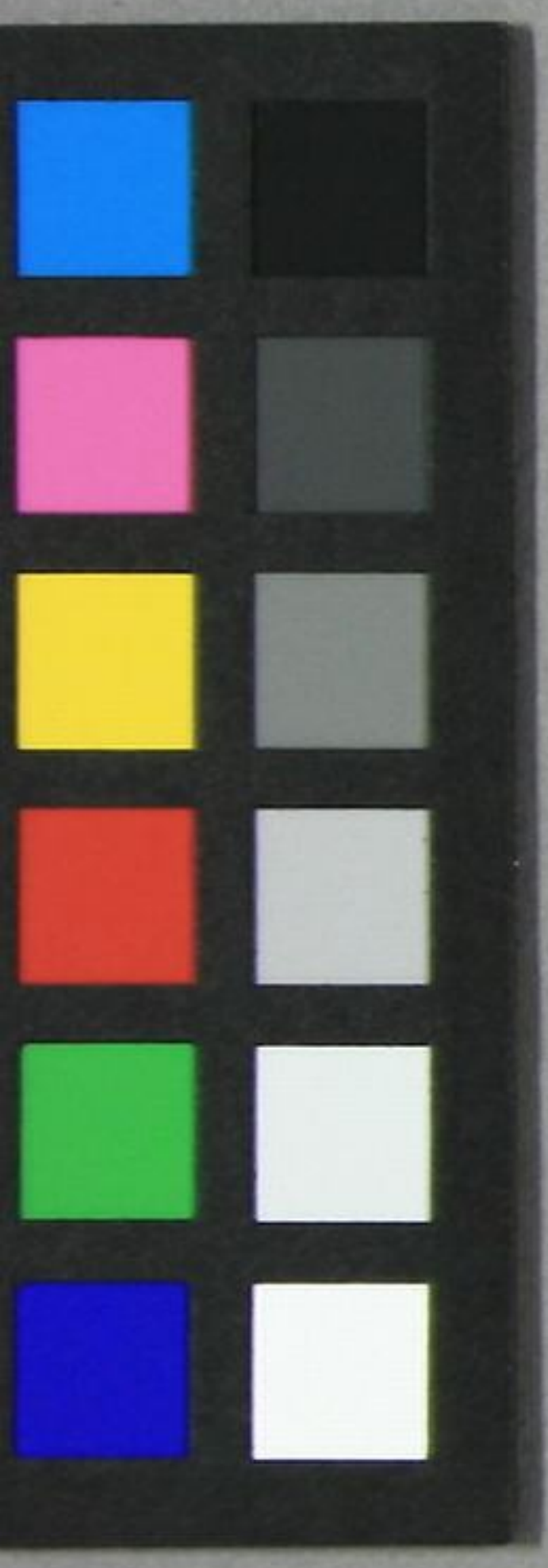


鹿兒嶋戰事日記  
卷号





清水屋内庄三郎

A 429

慶兒島戦争日記第一號

西國慶兒島縣暴拳の事件何等の事情未  
詳専ら巷街の流説混々として人氣搖動疑  
惑を懷者多と雖ども諸官真への傳信を  
暗号の由確報探知する事能く然れど  
も同縣の士族政府へ抵抗するに至るは  
重代の變動也唯々街説は随ひ又ハ新聞書  
を綴集して一卷とみせば謬傳稍多し見る  
人之を諒し玉ひ

官許明治十年三月三日

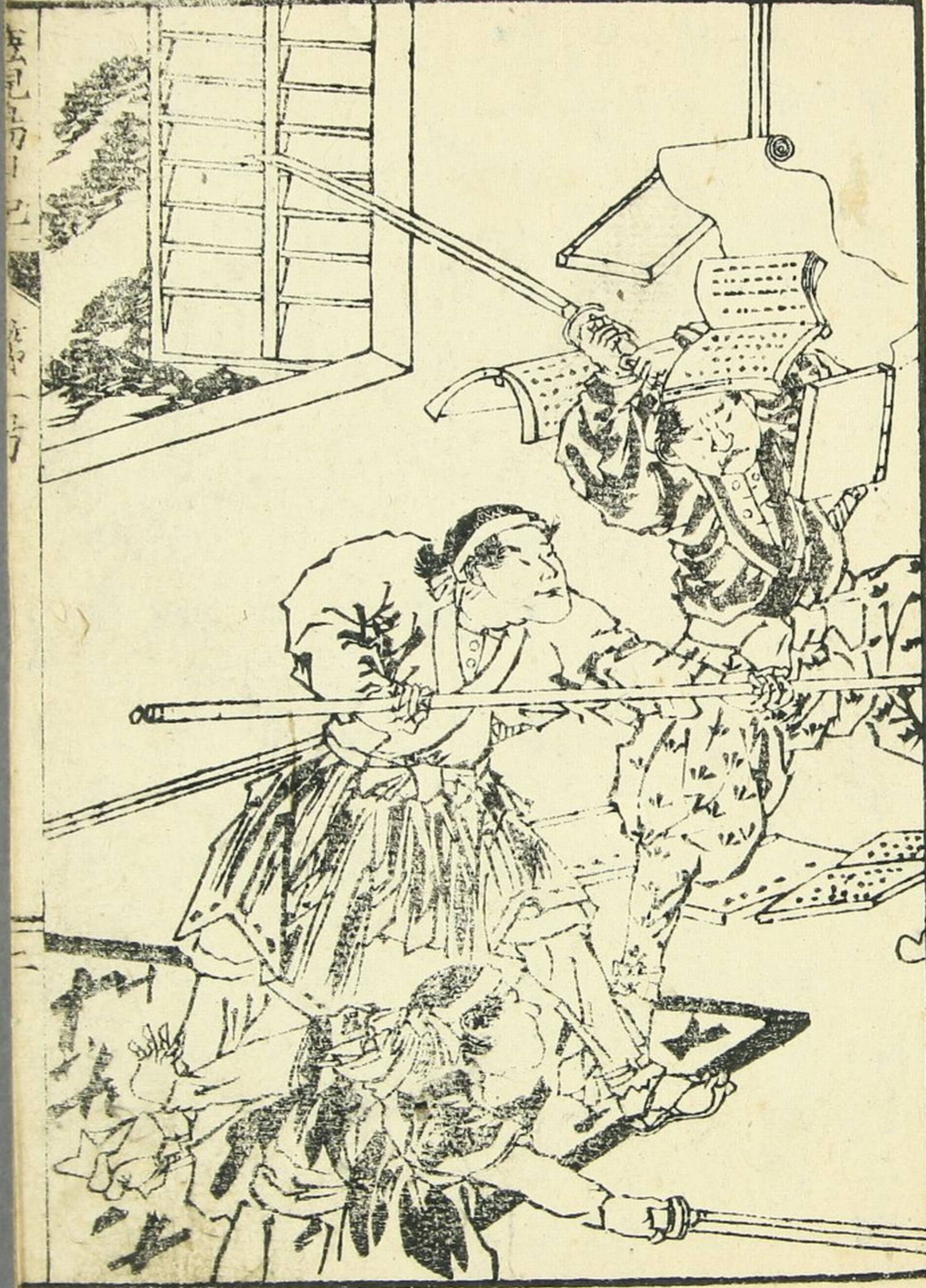
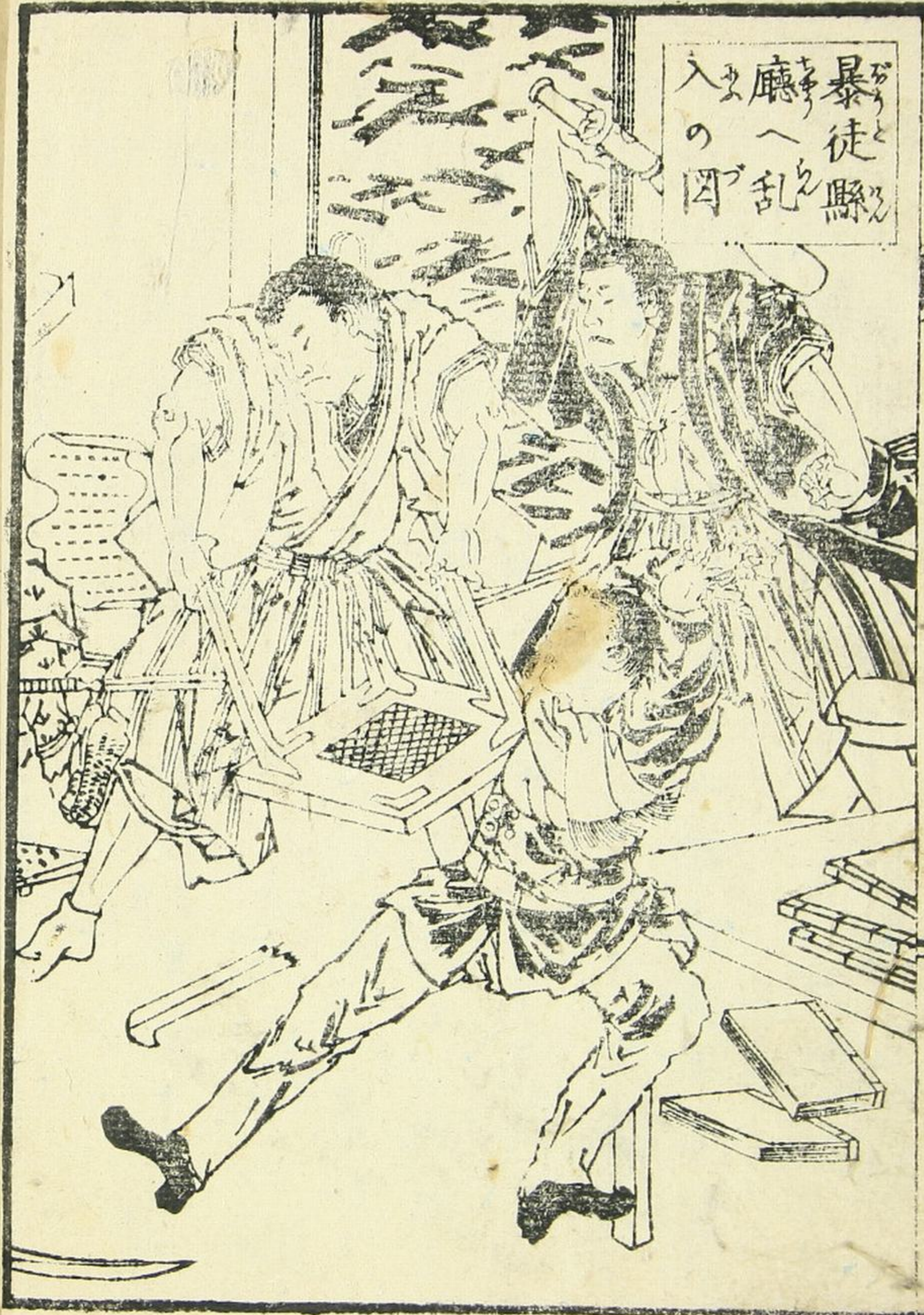
櫻齋記

010190510099

48-7877



暴徒縣  
廳へ乱  
入の囚





明治十年二月八月の夜十二時頃私學校の生徒の輩二百名余り各得物と携へ鹿兒島縣廳へ不意に押寄暴挙し及びける故宿直の官負方必死と究め防がせられども突然と斬入薙立ち故官負方憤骨碎身しと縣門を拒ぶと雖とも身寸鐵と帯び血氣の壯士等ハ多人數官負方ハ少勢暫時の間の戦ひは疾く負ふの勢あり終は暴徒が為は縣廳を奪ひ取られり此縣廳ハ鹿兒嶋城の眼下あり以前ハ士族の明屋敷にて不堅固故防禦も心の俦ありざるべし此企ハ生

徒の輩己ふも非ざり不平の士族連ハ鹿兒嶋城と根元と一と楯籠り國境の口々へ人數配をみ内外旅人の通行と差留め固め居る由此は櫻嶋といふる東北ハ大隅屬一西ハ薩廣の地方より港口至て狭く小島あり其外若島あり櫻嶋より鹿兒嶋まで海上一里あり銃器製造場ハ磯といふ地の集成館より器械を備たり又同所及び稻荷川の股共は弾藥製造所ニヶ所あり臺場ハ洲崎祇園の向と中程とより若事在此所は寄る船の狭撃は尤も便あり由



○同縣より従前より種々の隊名ありき島津氏の直隊と錦虎隊とて三千人桐野氏の組と狙撃隊とて三千人西郷氏の組と元牛隊とて二万人其他数隊あり常より若事ありを國の爲に死を究め命と塵芥と惜ぬ気風ありとを又政府より疎暴輩の企てと早くも心付きしや一月廿七日大坂鎮臺の命より依りて陸軍士官三菱汽船赤竜丸に乗る廣見島へ赴き同廿一日同所の製造の弾薬二千匣と積込んで翌二月一日又千五百匣と積込んとせし折々同縣の士族二千人を俄に其

所へ押寄火薬運送を遮り止め悉く掠奪したりこれバ赤竜丸の詮方なく直に彼地と出帆して同六日小神戸へ引返したるの電報ありとを○同縣の元大属渋谷国安君ハ談地より三國九とつゝ汽船に乗込て神戸へ着し去ル七日三義郵便東京丸よてかの地と出帆し二月九日の午後横濱へ入港直に入京される由是ハ必を今度の事変と政府へ申上んが爲なりと云り○此度暴拳とるせし士族ハ即ち学校黨の壯年輩よりて先年河内政府へ建白する事ありと云



大勢上京し暫く市ヶ谷に滞留して居たる過激  
黨なるより

○林内務少捕君へ大分縣近辺と巡廻中あり  
うど此警報と聞や否や説諭の為は鹿見島へ出  
船されしと又西京に在り河村海軍大捕も至急  
神戸より高雄丸に乗込長崎へ赴くは諸軍艦と  
該港に集て非常の備とすは孟春艦鳳翔艦の二  
艘へ仁禮大佐が乗組て同九日東京と出登し綿  
貫少警視重信権少警視並は警部八名と引卒し  
巡查六百人の何れもスナイドル銃一挺は警部

ハピストル一挺は準備し綿貫少警視ハ二百  
人を率ひ長寄へ神足一等大警部ハ二百人率ひ  
熊本へ川畑大警部ハ百人を率ひ佐賀へ重信権  
少警視ハ百人を率ひ福岡へ出張の所俄は巡查  
百五十人を増員し石川中警視品川内務大書記  
官も三菱の金川丸へ乗込と十一日何れも出  
発せしれなり

○一説は一月廿一日並に二月一日の両夜は暴  
徒の多人数同縣海軍省造船所あり磯の属舎小  
侵入し銃器弾薬と奪ひたるより又一月廿一日







の夜同縣下の陸軍砲兵属廠に侵入しスナイド  
ルの銃及び弾薬若干奪ひ取りたりとのりみ現今  
鹿見島より銃器凡千五百挺と其他小銃三千  
挺都合四千五百挺程なり大砲の四門あり是は  
先年政府より取立よなり一時の田舎に在り  
全く見落したる今ありと其外「ニエ」銃ハ駿  
多しくあり、弾薬の充分にて弾薬製造所あり  
元込銃の弾丸と日々三千發位で製する器械あ  
れど学校黨のいづれも一己偏見の疎暴輩故号  
令も嚴あつて此輩嘗て西郷氏に迫り將帥と

んこと勧めし多し同氏の確乎として動らば  
無名の暴動の天下の蒼生の悪む所萬世不滅の  
賊名と遺し現は一身の大事と誤るのありは  
逆賊の汚名を後世に傳へる人の笑を受るへ口  
惜き次第あり、ゆや御辺等も近く、佐賀の江藤  
熊本の神風連山口の前原等の覆轍を何と見ら  
せしやと大蔵名分を正して説諭されしうと毛  
早り切なき、年輩の遂に兼伏する気色ありれ  
を同氏の決然謝絶して跡を暗まし何處へも遁  
去せしうを、相野篠原の両氏を以て巨魁と仰ぎ



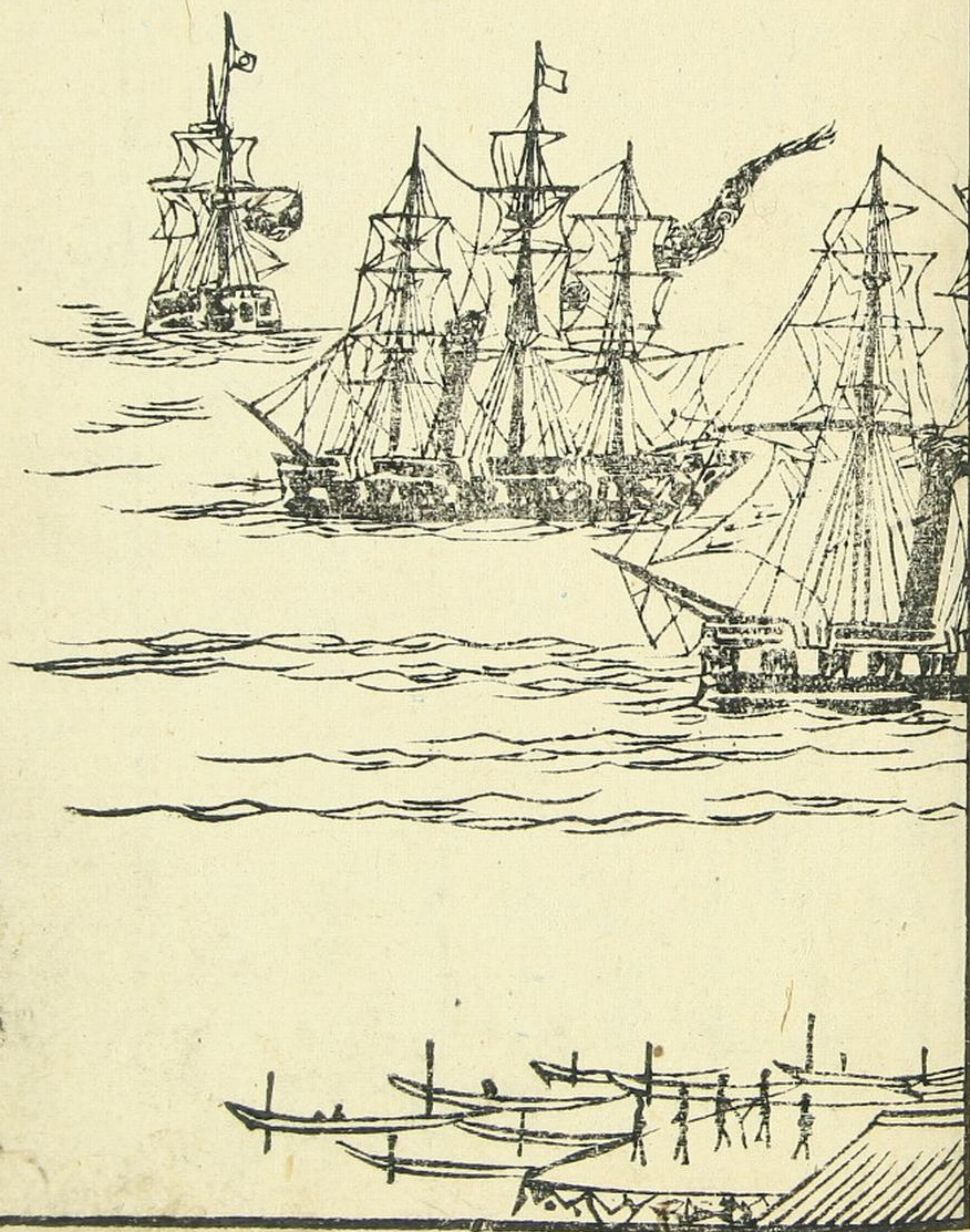
たうと 以上二説 真偽未詳 三菱太平丸及び前は琉球藩へ  
賜へり 大有丸を奪ひ 諸方へ士族と煽動を  
之が為は佐土原延岡の士族へ是は組まざる者夥  
多存りたり

○大山縣令は大奮発して命のろくん限りへ尽  
かり成たけ

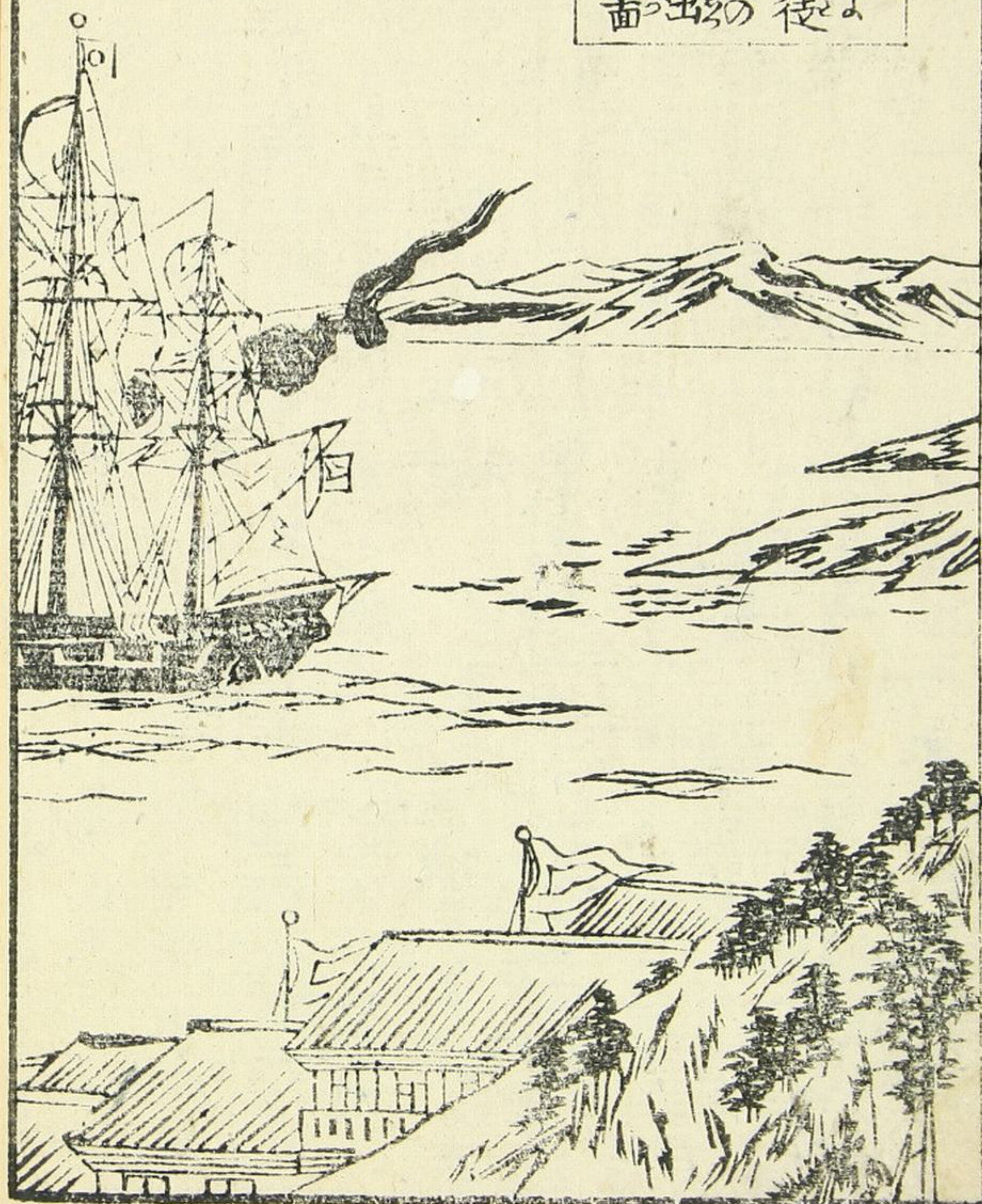
朝廷の御世話に成らむして鎮撫せんと同論の  
者と集めと専ら力と尽されしと云又島津久光  
公父子も此度の拳動を大に憂慮せられしと云  
次第は暴勢熾んよして河村林大山の三君も一

先神戸へ引取まし其時誤つて暴徒の為は生  
擒ありたる者三十人程なりと斯く野津陸軍  
大佐は遠藤中尉と共に去ル十日出立され滋野  
陸軍中佐川上陸軍少佐へ西京へ赴くは大久保  
内務卿ハ同十三日午後三時後の汽車にて横濱  
へ赴き直に玄武丸へ乗船りて西京へ出立さ  
れ前島内務少輔ハ内務卿の代理となり中島柳  
原の両議官島尾陸軍中將及び大山陸軍少將も  
兵隊と率ひ同船へ乗込と十四日あけ幹事河野  
敏謙及び日下部大書記官の両君ハ土州の田知





神戶の船出の  
 軍艦の  
 發の





事山内君と同行せられたり又同日大警視より  
の達しふ銃砲弾薬の儀陸軍海軍省及び鎮臺用  
向と除くの外平常免許の者たりとも當分の内  
賣買運送被禁候此旨布達候事近衛兵第一聯隊  
へ東京丸へ五百人乗り込と東京鎮臺第一聯隊  
の第三大隊ととも兵庫丸へ乗り組と十四日  
出登りて兵庫へ赴り且まゝ旧熊本藩知事細川  
護久君の家令家扶と引連りて東京丸へ乗込と  
後藤板垣大江の三氏も同船りて出帆されたり  
同船の上等室へ陸軍の將校とて充満しと

云亦陸軍會計監督田中光顯君及び同軍吏正野  
田部通君及び會計士官一名外も同省の函宮四  
五名と看病人看護卒十二三人も十五日出帆の  
社寮九して大坂へ向け出帆の由  
○天皇陛下へ西京へ御駐輦と相成有搦川宮小  
勅命ありと暴徒説諭の爲柳原議官と副へ差遣  
さる等して既と明治九へ乗込と軍艦一艘並と  
騎兵等迄備へたる折柄十八日午前熊本より鹿  
兒島の暴徒水俣並と人吉の両街道より押出し  
来る勢ひ同縣人十名を宿割のたゞ熊本縣下







